

同志社京田辺会堂 建物案内

「言館(KOTOBA-KAN)」、「光館(HIKARI-KAN)」
 (同志社大学京田辺キャンパス)



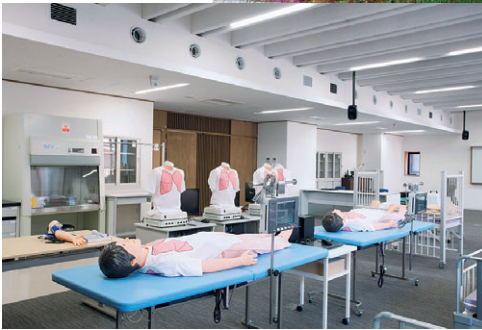
竣工日 2015年3月

国際コンペを経て採択された作品を基本として、大学京田辺校地に待望の宗教施設が建った。今出川の同志社礼拝堂の竣工から129年目のことである。東西2棟からなる当施設は、両棟を包含して同志社京田辺会堂と名付けられた。250人収容の礼拝堂を有する西棟は新約聖書・ヨハネ福音書1章1節（初めに言があった）から言館、ラウンジを持つ東棟は旧約聖書・創世記1章3節（神は言われた。「光あれ。」）こうして、光があった）から光館と命名された。ラウンジでは資料の展示によって同志社の歴史と建学の精神を知ることができる。礼拝堂の様子はラウンジからも見ることができるので、学生にとって敷居の高い場所ではなく、親しみあえる空間となるはずである。建物の間には、新島が国禁を犯して大海原を渡ったことを表す「新島襄の海」が配置されている。

この施設は日常的に「神と人、人と人」とが出会える場所・時間を提供する。礼拝堂で週3回のチャペル・アワーを行うほか、昼休みにはオルガンの音色に包まれながら心静かな時間を過せる場となっている。各学部・研究科などの行事や学生の研究成果や課外活動の発表の場として活用してもらい、京田辺校地における精神的なシンボルとなることが期待される。



竣工 2015年2月



プラクティカル・サポート・センター

2015年2月、京田辺キャンパスに看護学部関連棟「蒼苑館」が竣工した。館名は旧約聖書の詩編23編2〜3節（前半）の「主はわたしを青草の原に休ませ憩いの水をほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる。」という一節を出典としており、キャンパスに学ぶ者、働く者、訪れる者たちが神の導きによって「青草の原に休らい、憩いの水のほとりにと導かれるように」という願いが込められている。建物は、現在薬学部の実験実習棟として使用している「憩水館」の隣に建っている。

館内には、基礎看護学、成人看護学、ウイメンズヘルス・小児・精神看護学、高齢者・在宅・公衆衛生看護学といった看護学の専門分野ごとの実習室が設置され、学生はそれぞれの看護技術をしっかりと学ぶことができる。また、学生の主体的学習を支援する場として、シミュレーターなどを備えたプラクティカル・サポート・センターを設置し、開室中はインストラクターが学生の学習ニーズに対応している。1階には薬学部の関連施設が入っており、両学部の連携を視野に入れた施設配置となっている。

ラーニングラウンジ、テラスなど、学部に関係なく利用できる共通スペースも設けられ、学生が課題に取り組んだり、友人と憩う場として利用されている。